



酪農学園大学の麻田理事長の歓迎を受ける委員ら（上）と約4時間に及び講義に聴き入る委員（下）

### 酪農学園大学・荒木教授に聴く

酪農学園大学は、190万人都市である札幌市の隣、江別市にあります。同大学の教授で、葛巻町に数回足を運び町の酪農を調査した荒木和秋教授に「葛巻町の酪農展望、自給粗飼料生産構造の改革」と題して講演をいただきました。

北海道における酪農経営規模は拡大しているものの飼料費の増大などにより、所得水準は低迷し、補助金により辛うじて収支を保っている現状を説明されました。またTPP（環太平洋

### 北海道酪農も低迷

### 葛巻酪農の発展方策は？

## 高品質な牛乳生産を

## 輝くふるさと常任委員会 研修レポート

### 新ひだか町訪問と 北海道酪農を学ぶ



姉妹町村の北海道新ひだか町役場で、酒井町長をはじめ多くの職員の出迎えを受けた町長、議長ら

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、10月26日から28日までの3日間にわたり、姉妹町村の北海道新ひだか町、酪農学園大学、(株)町村農場を視察。葛巻町と新ひだか町の絆を確認するとともに、今後の葛巻町酪農の展望について研修しました。

## 固い、友好の契り、再確認

### 北海道 新ひだか町（旧三石町）

### ■姉妹町として32年間 鈴木町長も同行視察

昭和58年6月に旧三石町と友好の契りを結んで32年。この間、首長交流や物産交流、小学生のスポーツ交流などを続けてきました。

その三石町は平成18年3月に静内町と合併し「新ひだか町」として10年を経過しました。

このたび議会では、新ひだか町が進める先進事例を視察し今後のまちづくりや議会の活性化の参考とするため、鈴木重男町長とともに全議員が新ひだか町を訪れました。玄関で職員の拍手で迎えられたあと町長室で酒

### ■井町長らのおもてなしを受け、両町の近況や産業振興について情報交換し、今後も交流を続けさらに絆を深めることを再確認しました。

井町長らのおもてなしを受け、両町の近況や産業振興について情報交換し、今後も交流を続けさらに絆を深めることを再確認しました。

### ■ドリカム推進事業で 町民の夢実現を応援

町民の夢の実現を応援しようと平成23年度に事業開始した「ドリカム推進事業」について説明を受けました。

この事業は、町の資源を活用した地域特産品の開発と販路開拓への取り組みに対する経費の半分を助成するもので、最高50万円です。審査は町の商工会、農協や消費者協

■新ひだか町の概要  
平成18年3月、三石町と静内町が合併して誕生。人口25,000人。歴史的名馬オグリキャップなどを輩出した「競走馬のふるさと」として有名。

会など民間感覚を取り入れて行います。これまでに「当地グルメ開発やネットを活用した情報発信、首都圏販売事業など12件が認められました。また合わせて事業展開

されている「新ひだか推奨品認証制度」により認証された推奨商品は35品。これら商品は「推奨品」のシールが貼られ道の駅などで販売されています。委員からは「意気込みを感じた。事業者の自信につながる事業で参考になった」という意見が聞かれました。

このあと昨年7月オープンの町立図書館と博物館の複合施設を見学しました。

### ■放牧はメリット大

酪農の本場ニュージーランドでは、徹底的なコスト意識による経営により、牛舎やサイロなど利益を生まない施設は所有しない、集約放牧と季節繁殖を行い、生活中心の酪農をしていることが紹介されました。

また放牧は、牛の動きを活用し、機械や施設労働、エネルギーの節約によりコストの縮減のほか短草利用で高栄養吸収、電気牧柵による牛のコントロールなど多くのメリットがあることも併せて話されました。

### まちなら (株)町村農場 生産から販売まで

酪農学園大学と同じ江別市で乳牛340頭を飼育し、生乳生産から加工販売まで自社で行う(株)町村農場を視察。酪農の生き残りをかけ酪農特有の悪臭対策のため導入したバイオガスプラントは、住民の苦情解決へとつながっている事例でした。



(株)町村農場を訪れた委員ら

「傾斜地の多い葛巻町でも可能か？」という議員の質問に「山地は地価も安く有利。少ない農地でも時間放牧で可能」と太鼓判を押しました。

北海道足寄町では「放牧の町宣言」をし、放牧を推進。経営改善が進み新規就農者や子どもが増加した事例も報告され、興味深い取り組みです。

### ■今後の葛巻酪農は

葛巻町の酪農発展の方

策は、地域にある資源を生かすこと、TPPに對抗できる高品質牛乳の生産、高齢農家の存続と新規就農者の受け入れが重要と荒木先生は力を込めました。

研修を通じ、委員から「放牧を含めた自給飼料活用によるコスト削減方策の検討、高品質の牛乳生産、生産者から直接消費者へ製品を届ける方策の追求が重要」という意見がありました。